

平成 29 年度  
学校法人学文館の事業報告

(平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日まで)

## 1. 法人の概要

学校法人学文館は、北関東における学術の一中心として人文・社会・自然の諸科学にわたる幅広い専門教育と豊かな人間形成の場として、均整のとれた総合的、学術的研究教育を推進するとともに、創造力に富み、国際的感覚豊かな、積極性のある人材を育成することを目的として設置された。

### (1) 設立年月日

昭和38年1月23日

### (2) 設置する学校及び収容定員・学生園児数

|           | 学部等        | 学科             | 収容定員  | 在籍数   |
|-----------|------------|----------------|-------|-------|
| 上武大学      | 大学院経営管理研究科 |                | 40    | 26    |
|           | ビジネス情報学部   | スポーツ健康マネジメント学科 | 1,040 | 1,099 |
|           |            | 国際ビジネス学科       | 480   | 414   |
|           |            | 会計ファイナンス学科     | 募集停止  | 3     |
|           |            | アジア地域ビジネス学科    | 募集停止  | 3     |
|           |            | スポーツマネジメント学科   | 募集停止  | 7     |
|           | 看護学部       | 看護学科           | 320   | 371   |
| 上武大学附属幼稚園 |            |                | 180   | 89    |

(掲載の在籍数は平成29年5月1日現在)

### (3) 役員概要 (平成29年5月29日)

定数 理事：8人以上12人以内、 監事：2人以上3人以内

現員数 理事：8名、 監事：2名

名誉理事長：1名、 相談役：1名

理事長 澁谷朋子

理事 澁谷正史 鈴木守 栗原寛 沼賀勝平

深井尚武 貫井孝道 栗原信征

監事 生方政文 新井近男

相談役 植原寅之助

### (4) 教職員の概要 (平成29年5月1日)

| 学校名   | 学長・園長 | 教員数 | 職員数 |
|-------|-------|-----|-----|
| 上武大学  | 澁谷正史  | 73  | 56  |
| 附属幼稚園 | 澁谷朋子  | 4   | 2   |
| 合計    |       | 77  | 58  |

## 2. 事業報告

### (1) 法人事業報告

#### 1) 財務強化

○中長期展望に基づく財務基盤の確保については、従前通り順調に遂行できている。詳細は決算報告を参照

#### 2) 管理運営

○規程等の整備、内部監査の拡充強化に関しては、認証評価受審に対応して実施。平成29年10月に実地視察を受けて、12月の提言案が送致されたが、これに基づいて対応できる対策を講じた。例として大学院担当教員の資格に関する規定等の整備を行った。また内部監査に関しても監査室を中心として例年通り実施した。

#### 3) 大学創立50周年記念事業の準備

○大学両キャンパス体育館の外装・床張替え工事を実施した。その他にも空調設備などの設備の改修工事を実施し、節目となる年を迎えるにあたって、教育環境の整備を図った。これは引き続き次年度においても継続して行う予定である。

○記念誌編纂準備業務としては、中村準備室長（総務部長）を中心として30年度に発行する記念誌の編纂業務を執り行った。上毛新聞社の藤井浩顧問の協力を得て、各方面で活躍するOBの取材なども行いながら、内容的にも充実した記念誌を発行するための準備を整えた。

#### ○記念行事の開催

・10月高崎キャンパス三俣記念館ホールにおいて上武大学創立50周年記念事業企画「いのち」を開催した。第1部は小池邦夫客員教授（上武大学手がき文化研究所長、日本絵手紙協会名誉会長）による公開講座、緒形拳「いのちの演技、いのちの絵手紙」が、第2部は林勝彦客員教授（元NHKプロデューサー）が監督されたドキュメンタリー映画「いのち」の上映会、第3部は、上毛新聞社藤井浩顧問の司会で、小池邦夫氏、林勝彦氏、林泰秀客員教授（群馬県赤十字血液センター所長）、澁谷朋子理事長、澁谷正史学長による「いのち」をテーマにしたトークショーが行われた。

・12月には本学OBプロ野球選手たちが一同に会してのトークショーを開催した。司会進行は前回「いのち」と同じく藤井浩氏が務め、上武大学硬式野球部の谷口監督と共に、選手たちからの在学中やプロの現場でのエピソードを掘り下げ、会場をわかせてくれた。最後には各選手からサインボールや野球グッズなどの抽選会も行われ、クリスマスプレゼントと題した文字通りのトークショーを開催でき、大学50周年記念事業を大いに盛り上げた。

#### 4) 改組・増設準備

○主として新たな学問領域や教員の退職に伴う専門分野補充のため公募を実施した。これにより設置認可後の新たなコースに対応できる人材の確保がで

き、また新たなコースに関しては担当する採用候補の教員の協力を得ながら、カリキュラムのこと、実習施設・設備のことなどを大学執行部を中心に関係者が集まり、詳細な検討を行いながら申請に向けた準備を整えた。

## (2) 大学事業報告

### 1) 研究活動の積極的支援

○医学生理学研究所長でもある澁谷正史学長が高度な研究活動を行いながら、大学全体の研究活動を牽引して実績を残している。同時に全教員に向けて学内説明会を通して、研究活動の促進と共に、さらなる外部資金獲得に向けて積極的にチャレンジするよう促している。

・デンカ生研との共同研究により、妊娠高血圧症候群の診断薬開発に取り組んできた結果、単純化・短時間で安価な測定法の開発に成功し、特許申請を行うに至り、昨年12月に群馬県庁記者クラブにて記者会見を行った。これは更に東京大学付属病院（産婦人科）と共同研究契約のもとで妊娠高血圧症候群患者血清の測定を行い、新規測定法が血清中に異常発現を検出することを確認している。

○澁谷学長は国内外の教育研究機関からの依頼により特別講演などを行っており、これにより大学としての社会的認知度も向上している。

・山口大学共同獣医学部・島田教授の招きにより、「がんの増殖制御」公開講演会で「VEGF とその受容体による血管新生機構と、疾患とのかかわり」と題して特別講演を行った。

・韓国ソウル大学・Jeong-Sun Seo 教授の退官記念シンポジウムに招待され、「日韓がん会議の設立、および、最近の研究の話題」と題して講演を行った。

○学長の様々な研究活動支援により、以下のような研究成果も現れている。

・日本私立学校振興・共済事業団の学術研究振興資金（若手研究者奨励金）で、ビジネス情報学部スポーツ健康マネジメント学科の堤ひろゆき講師の研究テーマ「近代日本におけるエリート・ネットワーク形成に関する実証的研究」が採択された。本資金は、社会的要請の強い学術研究を助成するため交付されており、若手研究者奨励金においては将来的な発展性や独創性のある研究が対象となり、堤講師の研究に今後の成果が期待される。

○学内研究費及び科学研究費の採択状況は以下のとおりとなっている

- ・三俣記念基金研究費 6件 1,680,000円
- ・特別研究費 5件 700,000円
- ・科学研究費 15件 8,912,546円（うち間接経費2,299,500円）

### 2) 教育活動の充実

○ピアレビューを例年通り10月と11月にそれぞれ1週間ずつ開催し、事務職員も含み全教員が参加して行われた。これを取りまとめた参観票は今後の授業運営の参考としてもらうべく、各教員に送っている。

○学内の教育と研究の質向上を目的とした「学内研究会」が、2月高崎キャンパスで開催された。第12回目となる同研究会は2部構成であり、第1部

の教員報告ではビジネス情報学部から堤ひろゆき講師、看護学部から石久保雅浩講師と片貝智恵講師による研究報告が行われた。第2部は学生報告として本学大学院生が修士論文を、学部生が卒業研究、研修事業、地域連携事例について発表した。会場の観覧者や参加者からは質問や意見、アドバイス、感想等が盛んに発せられ、教育および研究活動の活性化に寄与する研究会となった。

○高崎市主催の「市内私立大学・短期大学連携事例発表会」が高崎市産業創造館で行われ、本学からは2グループの学生が研究活動に基づいた事例発表を行った。発表会の共通テーマは「～産学官連携・地域貢献活動による地域振興を目指して～」とされており、高崎市内の各大学および短期大学がそれぞれの活動報告にのぞんだ。本学の発表テーマは以下のとおりである。

- ①「みるスポーツとしてのBリーグの魅力について ～群馬クレインサンダーズの観戦者調査における分析と考察～」
- ②「上武大学ボランティアサークル ～高崎市新町中学校における学習支援活動～」

### 3) 施設設備の拡充

○50周年記念事業の一環として、両キャンパス体育館の外装工事と床の張り替え工事を実施した。共に設置後相当の年数を経ており、逐次点検を行ってはいるが床部分が一部破損しかけているなど、管理上問題点も指摘されていたため、外壁などの補修を伴う外装工事と共に、安全に利用できるよう床の張り替えも同時に行った。また高崎キャンパスでは空調設備も一部不安定な状況となったため、補助金も活用し、設備の改修工事を行った。

○その他の施設設備に関しても今後の状況を踏まえ、引き続き記念事業の一環として対応し、改修等を行っていくよう検討を加え、次年度予算対応も講じた。さらに新たなコース設置により必要となる施設設備についても検討し、次年度早期に対応すべく予算措置を図った。

### 4) ボランティア・情操教育の推進

○ボランティア活動に関してはボランティアセンターが所掌し、授業科目である社会貢献実践としても活動が根付いている。平成29年度の状況では活動実績は18件あり、新町商工会と連携した新町商工際のボランティア活動、東日本大震災被災地でのボランティア活動、群馬整肢療護園でのボランティア活動など、参加人数も多く多岐に亘って行われた。

○教養科目として開講している「美術」での絵手紙の授業では、受講者が330名と今までで一番多くなった。9年継続して学生達に絵手紙を指導してきた結果、ただ単に絵手紙をかくということにとらわれずに、通信文の長文を書くことにより、文章力及び自己表現力が向上してきている。そして一番大切なことは、相手を思いやる心を育てることに役立っており、教育としての絵手紙が定着している。

### 5) 地域貢献活動の推進

○昨年5月富岡市立美術博物館において、絵手紙の創始者である小池邦夫氏

(上武大学手がき文化研究所所長、客員教授)による公開講座を開催した。この公開講座は5月2日(火)～21日(日)の間、包括協定の取組の1つとして同美術博物館で開催中の「上武大学絵手紙展」(主催:上武大学、共催:富岡市)の企画の中で実施した。さらに、公開講座終了後には群馬県立富岡高校ハンドボール部の生徒28名を対象に絵手紙実践講座を実施。生徒は慣れない筆に戸惑いながらも、楽しみまた集中して絵手紙を完成させた。

○昨年5月「妙義山ビューライド in 富岡2017」が開催され、ビジネス情報学部スポーツ健康マネジメント学科の西川彰講師と二橋元紀講師及びスポーツトレーナー部の学生18名がケアブースを設置し、出場した選手たちへのマッサージやアイシング、ストレッチなどのケアを担当した。大会には約430名の選手が参加し、ケアブースでは約120名の方に利用してもらえた。一昨年8月に本学と富岡市は地域の発展と人材育成への寄与を目的として、教育、文化、スポーツ、健康づくり、医療などの分野で連携・協力を進めるための連携協定を締結した。今回の妙義山ビューライド in 富岡2017への参加はこの協定の一環として実施されたものである。今後も双方の発展のために、様々な面で連携が進められる予定である。

○伊勢崎市との包括協定の取組で、今年2月上武大学の公開講座として伊勢崎キャンパスで「スポーツ・アカデミー in JOBU」を開講した。本講座は、将来のアスリートの育成を目的として行われた。今回は近隣の小学生54名とその保護者の方にご参加いただき、大学のスポーツ施設を利用して現役の大学生とスポーツを通じてふれあった。参加した小学生はサッカー・陸上・バスケットボールに分かれ、各運動部の監督・コーチの指導のもと、本学学生のお手本を見ながら準備運動・基礎練習の後のミニゲームなど、楽しく学んだ。保護者の方へは「子どもの発達段階とトレーニング」「子どものケガとトレーニング実践」の講義が行われ、最後は各種目合同でストレッチを行い、ケガの無い身体づくりを学び、楽しく充実した講座となった。

○昨年10月、本学と連携協定を結んでいる玉村町が「玉村町陸上教室」を開催した。この陸上教室の実施は今回が2回目となり、前回は「短距離走の走り方」がテーマとなっていたことから、今回は「長距離走の走り方」をメインに講習会が進められた。第94回箱根駅伝に出場する本学駅伝部から3名の部員が講師となり、玉村町内在住の小学生および中学生およそ30名に実技指導が行われた。これからマラソン大会シーズンを迎えることから、参加者の意欲は大変高く、積極的な姿勢で取り組んでいた。

## 6) 認証評価への対応

○大学基準協会へ提出した報告書を基に、10月に実地視察が大学において行われた。理事長、学長も同席のもと大学側に対するヒアリング調査と施設見学、学生達からのヒアリングも行われ、2日間の日程で詳細な調査となった。2日目調査終了後に再度確認で大学役職者らに質疑応答が行われ、その後の講評で全日程を終えたが、特に問題となるようなことへの指摘はなく無事に終了した。さらにこの調査を受けてから12月に送られてきた最終評価案に

関しても、緊急に対応すべき案件はなく、問題なしという内容であった。今年3月に正式に送られてきた基準協会からの評価書も適合として認められており、一部改善についても対応が済んでいるもの、あるいはこの後中間報告までに対応が可能なものであり、早急に検討を行い対応することとしている。

## 7) 国際交流の活性化

- 昨年9月4日(月)～11日(月)までの6泊8日間、看護研修オーストラリアを実施した。今回の参加学生は全員1年生27名(女性23名、男性4名)。本研修の中心は、南クイーンズランド大学イプスウィッチ校看護学部で、終日、現地の看護学生と一緒にシミュレーション教育の実践看護研修を体験し、コーヒータイトムや昼食を共にし交流を深めることができた。そして、難病を抱える子どもの支援施設「マクドナルド・チルドレン・ハウス」、セント・アンドリュース・イプスウィッチ病院、イプスウィッチ・ホスピス、高齢者ケア施設「OZケア」を訪問した。また、救世軍高齢者ケア施設リバービューガーデンの入居者の方々と折り紙による交流も行なうなど、とても充実した研修を行うことができた。
- 同じく昨年9月、スポーツ・トレーニング関係の海外研修として、「NSCAコロラドスプリング研修」を実施。参加した学生たちは、トレーニングの本場米国NSCA本部にて10項目以上にわたる座学及び実技を集中的に学んだ。将来プロスポーツ関係の職業に従事したい学生にとって大変有意義な研修となった。
- 今年3月語学研修として、ハワイ大学マノア校にて8泊10日の研修を行った。これはネイティブ教員の指導の下、20時間の英語学習を実施し、生きた英語を身に付けるための研修となっている。さらに学んだ英語を現地で使うよう指導を行い、英語によるコミュニケーションの楽しさを実感してもらうことも目的となっている。参加した学生達も積極的に英語を使って話しかけ、楽しみながら語学研修を行うことができたようである。
- 同じく3月「スポーツマネジメント研修 in LA」を実施した。これは米国ロサンゼルスで、プロスポーツと大学スポーツの施設比較や、日本の施設との比較を中心に、日本のスポーツマネジメントはこれからどのように発展させるべきかなどを考える研修である。またトレーニングやコンディショニングで有名なEXOSにおいて講義とトレーニング指導を受け、トレーナーを目指すためにどのようなことを学んでいくかを考える研修となっている。
- 昨年12月、高崎キャンパスの学生食堂において、この時期恒例のイベントとして「国際ビジネス学科、留学生と日本人学生の交流会」を開催した。参加したのは留学生11名、日本人学生12名、理事長、学長、教職員で、学長による乾杯の合図を皮切りに、和気あいあいとした歓談が行われ、クリスマス用のパーティ料理に舌鼓を打ちながら、各々が自己紹介を行うなどして交流を深めた。

## 8) 課外活動の強化

- 女子アスリート支援体制の整備を図るためまず女子サッカー部を創部した。結果として部員は少ないながらもリーグ戦で健闘した。女子バスケット部同様今後の部員獲得に向けてPR活動も行う。また指定クラブ以外でもアスリート入試導入により、多彩な競技で入学を希望する生徒も増えてきた。スキーマーのモーグル競技選手やボウリング競技選手などの入学はその良い例である。
- 指定クラブにおいては競技力向上はもとより、学生獲得も第一の目標として掲げてもらい、勧誘活動も精力的に行うよう依頼している。こうしたなか硬式野球部では全国大会で5季連続のベスト4入りを果たすことができ、駅伝も10年連続で箱根駅伝に出場し、大学知名度向上に大きく貢献できた。
- 指定クラブの学生数増加を受けて新たな指導者（コーチ等）を着任させ、競技力以外、学生生活全般についても指導が行き届くよう配慮した。海外から来る留学生にも語学学習（日本語）を中心に、大学生活が円滑に送れるよう、サポートする人的体制も構築した。

#### 9) 学生募集活動の強化

- 指定校などの見直しを行うとともに、出願条件（評定平均値）も同様に検討を加えた。また大学偏差値向上のために、入試の在り方についても検討を行った。
- 上武大学は、NSCAジャパンより、日本におけるストレングス&コンディショニングスペシャリスト(CSCS)を養成する教育機関として認定され、昨年4月よりCSCSの資格取得が可能となった。さらに昨年度この試験を受験した柔道整復師コースの学生が現役で合格しており、大学としての新たな魅力の1つに加えることができることとなった。
- 租税法に関する論文を執筆し、昨年3月に本学大学院経営管理研究科を修了した後、国税審議会に税理士試験免除申請をされていた学生が、免除決定通知書を受領し、税理士会へ登録申請を行うことができるようになった。これで3年連続で税理士登録できる卒業生が出ることとなり、本学大学院が税理士としての登竜門として社会的に認識されつつある。こうしたことは学部学生の獲得にも良い影響があると思われ、新たな大学の魅力として大きく情報配信していく。

#### 10) 大学の文化的活動の推進

- 50周年記念式典の準備を中心に、関連事業として実施する予定の絵手紙展を以下の通り決定した。①愛媛県松山市立子規記念博物館では「子規と野球と絵手紙と上武大学」として、小池邦夫先生の絵手紙と本学学生の絵手紙を展示。②渋川市徳富蘆花記念館では「小池邦夫と風見章子の絵手紙交流」と題して、2人が交流した絵手紙を中心に、本学学生の紫陽花を描いた絵手紙も展示。③上武大学絵手紙ギャラリーでは「小池邦夫と小木太法、小池邦夫と細井富貴子の絵手紙交流」として、小池邦夫先生に多大な影響を及ぼした2人との交流の絵手紙を多数展示。④富岡市立美術博物館においては、「世界はひとつ」町田洋二風景画展と小池邦夫氏の絵手紙を特別展示する。



こうした絵手紙展同時開催に向けて、PR活動などを含んだ種々の業務に取り組んだ。殊に愛媛県松山市の子規記念博物館での展示会準備では、現地に赴き詳細な調整を行った。

### (3) 幼稚園事業報告

#### 1) 検討事業

- 平成30年度、認定こども園への移行にあたり、認可外施設を設置するため、一部保育室の改修工事を行った。附属幼稚園としてのブランド確立に向けて、当幼稚園独自の保育への取組みとして実施してきた特別教育活動（TOKKA：通称トッカ）の内容を見直しながら、メニューを増やして教育・保育の質の向上を図った。
- 多様化する利用者のニーズに対応するため、広報活動の一環として園のホームページを刷新した。保護者との通信もスマートフォン上のアプリケーションで交信が可能なサービス（レーザーキッズ）を導入して、利便性の向上や情報発信に利用した。
- 職員の研修会への参加や園内研修の機会を増やして、教育・保育の質の向上に努めた。
- 預かり保育の時間内に教育活動（TOKKA）を取り入れることにより、利用者は前年度よりも2000人程増加した。本園独自の教育活動や大学の附属幼稚園としての特色（大学の施設や人的資源の活用）が保護者にも徐々に浸透し、園児募集の増員につながった。
- 地元主催の行事（新町商工祭に上武大学ダンスサークルと合同参加、新町ふれあいコンサートへの参加）に積極的に参加して、地域社会との交流を深めた。

#### 2) 継続事業

- 課外教室・預かり保育等の多様な保育に係る事業の展開と子育て支援教育事業の拡大
  - ・安全管理・危機管理への対応
  - ・研修の充実
  - ・地域社会との交流拡大・幼少連携の強化

### 3. 財務の概要

学校法人会計基準では、会計年度の終了時に「資金収支計算書」「事業活動収支計算書」及び「貸借対照表」を作成しなければなりません。

また、私立学校振興助成法第14条により、監査法人の監査報告書を添付したものを所轄庁に6月30日までに提出しなければならないことになっています。

#### ●資金収支計算書

資金収支計算書は、学校法人学文館の1年間の教育研究活動その他の諸活動の全てを資金の動きで捉えたものです。すなわち平成29年度に発生した収支の内容と、支払い資金(現金預金)の収支の顛末を明らかにしたものです。

##### 〈概要〉

当該年度の収入の部合計は、前年度繰越支払資金47億2,278万を含めて76億1,476万円となり予算比3,350万円の収入増となりました。

この結果、次年度繰越支払資金は、予算比1億7,722万円増の52億7,435万円となりました。

#### 【収入の部】

##### (1) 学生生徒等納付金収入

学生生徒等納付金収入は、22億4,094万円で、前年度比6,391万円増加しました。

##### (2) 手数料収入

手数料収入は3,011万円で、前年度比67万円減少しました。

##### (3) 寄付金収入

寄付金収入は8,047万円で、2,330万円増加しました。

##### (4) 補助金収入

国や群馬県からの補助金です。3億3,272万円で前年度比2,230万円増加しました。

##### (5) 資産売却収入

車の売却収入です。

##### (6) 付随事業・収益事業収入

事業収入は1,613万円で前年度比327万円の減少となりました。

##### (7) 受取利息・配当金収入

収入は2,784万円で、前年度比17万円減少しました。

##### (8) 雑収入

雑収入は3,453万円で、前年度比1,468万円減少しました。

##### (9) 前受金収入

平成29会計年度中に入学手続きをした平成30年度新入生の納付金が主なものです。

##### (10) その他の収入

退職給与引当金特定資産からの繰入収入が、含まれています。  
具体的には61歳～65歳の教員の退職金給付のための資金です。

##### (11) 資金収入調整勘定

平成29年度に入学した新入生の納付金は、平成28年9月の入試から入金されており、既に学生納付金の中に計上されているのでこの額を差し引きます。

##### (12) 前年度繰越支払資金

平成28年度資金収支計算書の次年度繰越支払資金の額です。

#### 【支出の部】

##### (1) 人件費支出

教職員や役員の給与・退職金の支払い等で、11億3,667万円で前年度比3,942万円の増加となりました。

## (2)教育研究経費支出

教育研究経費支出は、6億8,049万円で、前年度比9,587万円増加となりました。

## (3)管理経費支出

管理経費支出は、1億7,604万円で、前年度比662万円増加となりました。

## (4)施設関係支出

施設関係支出は1億4,679万円で、2億687万円減少しました。

## (5)設備関係支出

設備関係支出は、5,771万円で、1,195万円増加しました。

## (6)資産運用支出

1億3,921万円で、内訳は退職給与引当特定資産繰入支出と減価償却引当特定資産繰入支出です。

## (7)その他の支出

貸付金支払支出、前期末未払金支払支出と前払金支払支出の合計額です。

## (8)資金支出調整勘定

期末未払金と前期末前払金の合計額です。

## (9)翌年度繰越支払資金

収入の部合計額から支出の部(1)～(8)を差し引いた額です。

## ●事業活動収支計算書

事業活動収支計算書は、事業活動収入や事業活動支出にはどのような項目が事業活動区分ごとにあるのか、その内容を明らかにすること、および基本金組入後の事業活動収入で予算措置される事業活動支出との均衡の状態を明らかにすることを目的として作成されます。

### 【教育活動収支】

#### 【収入の部】

##### (1)学生生徒等納付金

資金収支計算書と同額です。

##### (2)手数料

資金収支計算書と同額です。

##### (3)寄付金

資金収支計算書と同額です。

##### (4)経常費等補助金

資金収支計算書と同額です。

##### (5)付随事業収入

資金収支計算書と同額です。

##### (6)雑収入

資金収支計算書と同額です。

#### 【支出の部】

##### (1)人件費支出

資金収支計算書の額に退職金(過年度分追加)が加算された額です。

##### (2)教育研究経費支出

資金収支計算書の額に減価償却額が加算された額です。

##### (3)管理経費支出

資金収支計算書の額に減価償却額が加算された額です。

#### (4) 徴収不能額等

組み入れた額は、ありませんでした。

#### 【教育活動外収支】

##### 【収入の部】

##### (1) 受取利息・配当金

資金収支計算書と同額です。

##### 【支出の部】

支出はなし。

#### 【特別収支】

##### 【収入の部】

##### (1) 資産売却差額

車の売却益です。

##### (2) その他の特別収入

現物寄附と施設設備補助金です。

##### 【支出の部】

##### (1) 資産処分差額

建物・構築物・教育研究用機器備品の除却と車の処分です。

#### ●貸借対照表

貸借対照表は法人の当年度末における財政状態を明らかにするため、法人の所有する全ての資産、負債、基本金の額を一覧表示したものです。

資産の部合計は184億8,460万円で、前年度比4億2,724万円増加しました。一方、負債の部合計は前年比5,670万円減少しました。

#### 【資産の部】

##### (1) 固定資産

固定資産の減少は、建物・構築物等の除却です。

##### (2) 流動資産

増えた原因は、預金の増加です。

#### 【負債の部】

##### (3) 固定負債

減った要因は、退職給与引当金の減少です。

##### (4) 流動負債

流動負債には、未払金、前受金、預り金があります。

未払金は減少しましたが、前受金と預り金の増加が要因です。